

## 横丁のいろいろ

村田 和彦

戦後の日本は経済的に大きく成長しました。それと共に都市計画の名のもと、町も整備され昔懐かしい横丁がどんどんなくなっています。そんな中でもまだまだ頑張っている(?)横丁があります。安らぐ横丁、なぜかときどきする横丁、猥雑な横丁、横丁は色々な思いをわかせてくれます。そんな横丁を幾つかご紹介します。

### 1. のんべい横丁

まずは渋谷のJR線沿いにある「のんべい横丁」です。戦後まもなく東急本店通りの屋台が移転しつくられた飲み屋街です。中に入るとまさにタイムスリップです。4, 5人も入れれば満員になる小さな小さな店が密集しています。屋台の歴史を引きずってか焼き鳥とおでんに名店が多く、店によっては予約が必要だそうです。最近ではこのレトロな感じがよいと、テーマパークにでも行くような感覚で若い女性客が来客し始めているそうです。そのせいか昔ながらの飲み屋だけでなく、おしゃれなバーのような店もできはじめています。業態の世代交代が上手に行われているということですかね。

### 2. 思い出横丁

新宿は西口に「思い出横丁」があります。ここも戦後の闇市がスタートの飲み屋街です。その当時は非統制品であった豚のもつを多くの店が扱いました。その名残か今でも焼き鳥ともつ焼きの店が多くあります。山手線側の一角は、「やきとり横丁」と別名でよばれています。今は「思い出横丁」ですが、昔は「シヨンベン横丁」と悪口をいわれたこともあるが、現在では共同トイレも立派に整備されており汚名返上です。

新宿といえば忘れてはいけないもう一つの横丁は、「新宿ゴールデン街」です。ここは元青線地帯であり「思い出横丁」とは違った独特の雰囲気があります。そのせいか3階建ての建物が多く、スナック、バーの店が連なっています。作家、詩人、演劇、マスコミ関係などの人達が来ることで有名です。

### 3. さくら新道

もう一つとっておきの横丁が王子にあります。その名は「さくら新道」です。長屋が3棟並んでおり全部合わせても100mちょいの長さで、その長屋に10数軒のスナックや小料理屋の店が入っています。道の反対側は花見の名所である飛鳥山公園で、うっそうとした樹が長屋の方に向かって覆いかぶさっており、片側だけに店が並んでおります。うっそうとした樹、建物の古さ、片側だけの店での数の少なさに、ある種の侘しさを感じさせます。しかし雰囲気はまさしく昭和の30年代そのままです。そのため映画、TVのロケーションにも時々使われるとか。

### 4. 落第横丁・合格横丁

最後は前三つの飲み屋街とは違う本郷の「落第横丁」です。本郷といえばご存知、某大学があります。この横丁には喫茶店、ビリヤード場がありそこに行きすぎると落第するぞということからきた名前だそうです。今行ってみると飲食店、商店が並ぶ何の変哲もない横丁ですが。

これに対抗してか近くに「合格横丁」ができました。商店街が名前を変え「合格横丁」と命名しました。しかも「合格横丁」というブランドの焼酎まで用意しました。文京地区にちなんでの命名なのでしょうか? 幾つかの横丁を紹介しましたが、横丁はまだあります。横丁探検は如何ですか?